

令和5年度スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会（第1回）議事概要

1. 日 時：令和5年12月14日（木）14:00～16:00

2. 形 式：オンライン会議

3. 出席者：

（委員） 岡島委員、小川委員、帯野委員、黒田委員、小林委員、サコ委員、
日比谷委員、平子委員、正宗委員、三島委員、米澤委員

（文部科学省） 小林 高等教育局参事官（国際担当）、吉岡 参事官付専門官 ほか

（事務局） 水本 独立行政法人日本学術振興会理事、
安藤 大学連携課長、安永 同課長代理 ほか

4. 概要

（1）令和5年度フォローアップ結果について

事務局から「資料1 スーパーグローバル大学創成支援事業令和5年度（2023年度）フォローアップ結果」に基づき、説明があった。主な質問は以下のとおり。

・外国人留学生の割合について、オンラインとハイブリッドを含むと説明があったが、いつからオンラインとハイブリッドの実績を含めているのかということと、日本人学生についても実渡航の留学だけでなく、オンラインとハイブリッドの実績も含めているのかを確認したい。

（2）「スーパーグローバル大学創成支援事業」に対する事後評価の基本的方針（案）について

文部科学省から「資料2 大学の国際化にかかる施策の最新状況について」、「資料3-1 スーパーグローバル大学創成支援事業令和6年度実施事後評価に係る基本的方針(案)」および「資料3-2 令和6年度 SGU 事後評価に係る基本的方針(案)(評価項目)」に基づき文部科学省から説明があり、その後「資料4-1 スーパーグローバル大学創成支援事業 事後評価要項(案)」、「資料4-2 スーパーグローバル大学創成支援事業 事後評価調査(令和6年度)(案)」、「資料4-3 スーパーグローバル大学創成支援事業 事後評価におけるR2中間評価からの主な変更点」および「資料5 事後評価スケジュール(案)」に基づき事務局から説明があった。主な意見は以下のとおり。

文部科学省の説明に関する意見

・各大学が戦略を立ててグローバル化に係る政策を実行してきたが、SGUが終わったから終わりではなく、成果のアピールと事業が終了して後も自走することを宣言させ、その点について事後評価を行うことで大学側に実際に遂行してもらうのが目的の一つであると理解している。

- ・項目別評価にロジックモデルと横展開が入っているが、この2点は総括的評価に移動させることはできないのか。意図としては、ロジックモデルは計画立案のツールであって、達成度を評価するのには向いていない印象である。中間評価で途中から入れているようでもあるので、事後評価でメインに持ってくるのは無理がある気がする。横展開については、未来の話であり、総括的評価の中で、次のステップとしてどういう風にしたいと考えてこれまで取り組んできたのかを整理した方が分かりやすいのではないかと感じた。
- ・横展開は大事だと思うが、具体的にどういう評価指標になるのか、KPIのようなものがみえないと感じた。何をもちょう横展開ができた・できないと評価するのかをぜひ示してほしい。
- ・10年間実施されたSGUがこれからもうまく働くかについては、自走化できるかどうかにかかっている。そのため、これから先もしっかりモニターしていくことが必要になってくる。
- ・ロジックモデルは実際、事業の途中から入ってきてはいるが、すでに定着し、実施しているのだから、こちらで評価することは妥当だと思う。鍵になるのは自走性の部分で、補助期間終了後も教育の質や国際化の部分がしっかり保たれるのかということと、財政についても引き続きしていくのかということである。
- ・コロナ禍において、また、ポストコロナにおいて留学という考え方が変わってきていると思われるので、この部分についてしっかりデータを拾って評価するのも一つであると思った。国際化に対して大学がいかに柔軟に対応しているかということもハイライトを当ててみる必要がある。
- ・例えば、外国語力基準を満たす学生の数や、教職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教職員等の割合について達成できていないとあるが、それぞれで相関関係があるのかどうかといった点についても検証してほしい。
- ・事後評価は中間評価と異なり、各大学のモチベーションはどうしても下がりがちになるが、SGUのブランドの継承というところで今回の評価結果が使われるという方向であれば、その点についてある程度説明があつてから事後評価をするというのも良いのではと思った。
- ・事後評価には影響を与えない全く別の位置づけとして、大学からSGU事業というものについて何か提言していただくような機会があるとよいと思う。
- ・グローバル化を考える中で大変なのは、外部環境が激しく変化することが言える。コロナ禍が正にその例であるが、今は円安が国外への留学を考えた際に各々の大学に大きな障壁をもたらしていると思う。一方で、国外の留学生を誘致する際にはこれがチャンスである。大学は外部環境の変化に応じてどう対応したのかという評価も、もう少し入れた方が良いのではと感じた。
- ・各大学は留学生を増やしていこうと取り組んでいると思うが、留学生を受け入れる環境は大学によってはまだ整っておらず、留学生と社会の接点を作ることについては大学の取組はまだまだだと思う。

事務局の説明に関する意見

・SGU を実施したこの 10 年で外部要因もそうだが、学生の考え方もかなり変わったと思う。達成状況やアウトカムに必然的に表れると思うが、総括的評価の部分で、グローバル化や大学が取り組んでいることについて学生の視点からについても記載させてはどうか。

・量的な観点から同じ基準で評価すべきなのか、または質的調査でもう少しじっくり観察した方が良いのかが説明の部分からはあまりはつきりしなかった。

(3) その他

「資料 6 大学への意見聴取」に基づき文部科学省から説明があった。